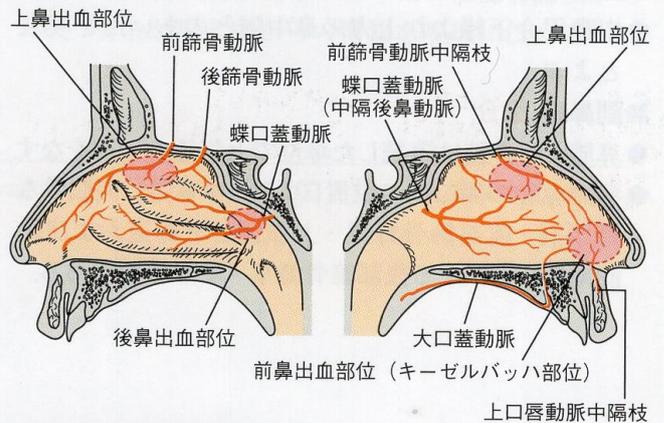


【血管支配と鼻出血(図6, 7)】

鼻中隔は上方は前・後篩骨動脈，後部および下部は蝶口蓋動脈(中隔後鼻動脈)によって栄養を受ける。鼻出血好発部位であるキーゼルバッハ部位(Kesselbach area)は，前篩骨動脈，中隔後鼻動脈，顔面動脈の枝である上唇動脈の鼻中隔下動脈と吻合部が形成されている。

臨床的には鼻腔側壁，鼻中隔のうち，中鼻甲介付部の高さより下方からの出血は，外頸動脈の枝である顎動脈の終枝，それより上方に位置する粘膜炎からの出血の場合には，眼動脈の枝である篩骨動脈に起因する出血と考える。キーゼルバッハ部位からの出血の場合は前方であるため，内視鏡を用いなくても出血部位の確認は容易であるが，鼻腔後方からの出血部位の確認には内視鏡の使用が必須である。

■ 図5 鼻腔の前頭断面(鼻中隔彎曲症および中隔突起の例)



■ 図6 鼻腔内血管図  
(春名眞一：鼻内視鏡手術のための臨床解剖，耳鼻咽喉科診療プラクティス 8 耳鼻咽喉科・頭頸部外科のための臨床解剖[池田勝久ほか編]，p.123，文光堂，2002より転載)

血性鼻漏（急性上気道炎の激しいもの、悪性腫瘍、異物など）

鼻乾燥感、痂皮形成

~~~~~

結痂（けつが）…患部から出た体液（滲出液）や膿汁などが固まって皮膚の表面に付着し、かさぶたができるまでの状態を言います。かさぶたのことを痂皮（かひ）とも呼びます。

~~~~~

痂皮： 俗に「かさぶた」と言われる、皮膚の表面にできる乾燥した赤黒色の血栓のこと。損傷を受けた皮膚は、血管の収縮により出血量を減らすとともに、血小板や赤血球を集めて血栓を作り傷口をふさぐ。その後、血小板から分泌されるフィブリンが、血小板や赤血球などを絡め取りながら凝固して痂皮ができる。皮膚欠損創では創面が乾燥するため痂皮が形成されやすい。

~~~~~

悪性外耳道炎： 緑膿菌による。

◆老人性難聴

老人性難聴は・加齢とともに徐々に進行する難聴をさし，典型的には両側対称性（左右とも同じ波形）・高音漸傾型難聴（高い音ほど聞こえが悪い）を示すまた語音弁別能（discrimination score）の低下も特徴である。不可逆性であり，対策はも

っぱら補聴器装用となる。生活習慣などの環境因子でも修飾されると考えられている。近年、ミトコンドリア遺伝子障害との関連が注目されている。

**加齢による難聴であり、治療の対象とならない。**

両側ほぼ同じ程度の難聴。

とくに高音の聞き取りが悪くなる。「電子体温計のピピッという音が聞こえなくなった」といった気づきが多い。

ほとんどの例で両側に同程度の耳鳴を伴う。「始終、蝉の鳴くような音が頭の中でする」など、「頭鳴り」として表現されることも多い。

40dBHL になると、日常生活に不便を感じるが多くなる。

~~~~~

聴力レベル「dBHL (デービー・エイチ・エル)」

ヒアリング・レベルの略です。この単位は、人がどれくらいの音で聞こえるか(聞き取れるか)を表しています。若い正常な耳の人が聞き取れる最も小さい音を 0dBHL とし、この音を基準としています。

~~~~~

特発性鼻出血 (自発性)

鼻をいじる、鼻をかむ、くしゃみをするなどの機械的刺激や乾燥、アレルギー性鼻炎などの炎症により鼻粘膜の損傷が起こる。鼻出血の約 80%を占める。